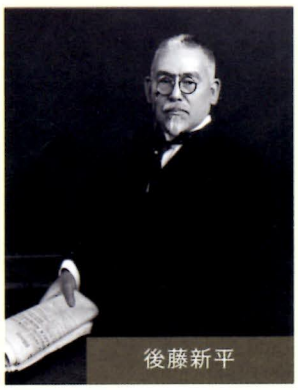
寄稿「万次郎と東一郎」その①


後藤新平

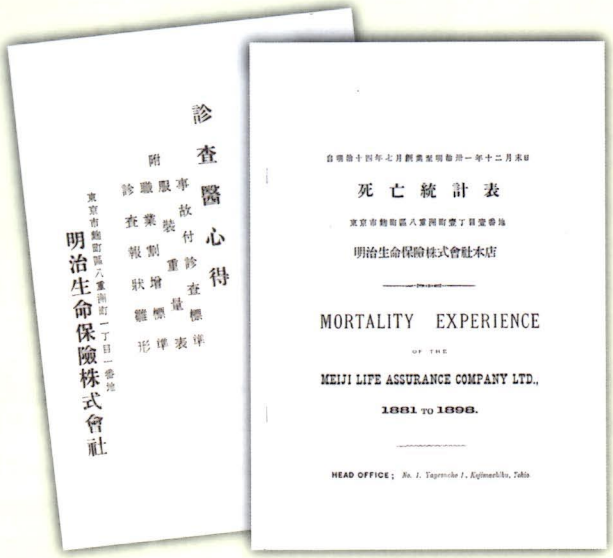
北里柴三郎

ベルツ教授の薫陶を受けている彼は、臨床医としても優れ、伝染病、肺結核はもちろん、肝臓・肺ジストマの発見（岡山）や、象皮病調査（八丈小島）などの業績もあげました。

当時の内務省には、衛生局長・長与専斎のもと、のちに「大物」となる二人の同僚、後藤新平、北里柴三郎（いわゆる三羽烏）がいました。とくに、彼と同年生まれの後藤に対しては熾烈なライバル意識を燃やしています。

長与局長が自らの後継者に後藤を据えた（明治25年11月）時に、東一郎は、「昨日、後藤新平衛生局長ニ任セラル北里モ亦内務技師ニ任セラル趣ナリ。新平ノ得意憶フヘシ。明治政府ノ人ヲ登用スルノ明ナキ遺憾ナリ。」と正直かつ感情的に後藤に先を越された悔しさを記している（「東一郎日記、11月18日」）。

このことが契機となって、官から民に転じた、行き先は明治14年創業の「明治生命保険会社」で、第2代診査医長に就任し（明治29年）、5年後の1901（明治34）年、創立の保険医協会の初代会長に推され、以後約30年に及ぶ最長不倒の任期を全うしました。生命保険医として、「診査医心得」、「査定標準」の制定はじめ、衛生統計学の素養を存分に駈使して、「カード・システム」の定着による「死亡統計表」の完成、業界内での死因分類の統一など、初代会長にふさわしい業績を残しています（保険医学の論文30数編）。


診査醫心得
附事故付診査標準
職服裝重量表
診査報告書制增減
狀態標準
形式
東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
明治生命保險株式會社

自明治十四年七月創業至明治三十一年十二月末日
死亡統計表
東京市麹町區八重洲町壹丁目壹番地
明治生命保險株式會社本店
MORTALITY EXPERIENCE
OF THE
MEIJI LIFE ASSURANCE COMPANY LTD.,
1881 TO 1898.
HEAD OFFICE: No. 1, Yaesucho 1, Kojimachi-ku, Tokio

同時に、臨床医としても２つの病院（回生病院と鎌倉病院）で患者の診療に当るとともに病院経営にも携わり（明治生命の勤務医との兼業ですが）、それぞれを盛業発展させる八面六臂の働きをしました。

「日記」からは彼の個人生活が読み取れますが、万次郎終焉の模様だけを見ても（明治31年11月12日）、父に対する並々ならぬ孝養心の一端が伺い知れます。最期を看取ったことが機縁で岡本武次（大学の後輩で日本橋病院長）と鎌倉病院の共同経営者になります。

また、若いころから一か所に定住しない性癖のせいか、殆どの伝記にある「砂村にあった旧山内家下屋敷から直接、終焉の地、京橋区弓町へ移転した」のではなく、その間に少なくとも７回も転宅を繰り返した、いわゆる「引越し魔」でした。家族思いでは人後に落ちず、とくに子供の病気に一喜一憂する様子は大変な子煩悩ぶりです。

趣味として、英・独の語学はもとより、漢詩、和歌の素養もあり、将棋も有段者で、当時の財界人たち（柳沢保恵伯爵（第一生命社長）、服部金太郎（服部時計店社長）、阿部泰蔵（明治生命頭取）など）としばしば将棋大会を催して交友を深めています。

言い落してならないのは、伝記作者としても優れた力量の持ち主であったことです。晩年、死の直前まで全精力を傾注して完成させ、昭和11年に刊行された「中濱萬次郎傳」は、今日でも「万次郎研究」の出発点とも言うべき名著となっています。

生涯現役といっても過言ではないほど晩年まで働き、中央衛生会委員、専売局の健康管理医、法務省常務顧問などの要職を続けました。

昭和12年4月11日、自宅で放射線療法を受けながら食道がんで死去されました。享年79歳の大往生でした。

Copyright (C) Center for International Exchange All rights reserved.